



シリーズ！ 活躍する2017年度国際活動奨励賞受賞者 その10

まつしま たかあき
松嶋 孝明

KDDI株式会社 技術企画本部 標準化推進室 標準開発グループ
ta-matsushima@kddi.com
<http://www.kddi.com/>



モバイルと衛星双方の専門技術者として、ITU-R WP5DとWP4Aの双方に参加し、両WPの連携体制の構築を実現した。WP5D会合では、DG MS/BSS 1.5GHz COMPATIBILITYの議長として作業を主導し、WP4A会合でも両WPの共同検討体制を確立した。

モバイルと衛星との共用及び今後の周波数有効利用について

この度は、日本ITU協会賞奨励賞という栄誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。日本ITU協会並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、過去にモバイルと衛星双方のシステム開発や検証業務に携わっており、ITU-R活動に参加する際も、モバイルと衛星の両面から共用検討などの標準化活動に従事する機会を頂きました。その中で、過去の事例では空いている周波数を新たな業務に割り当てていたものの、既に使いやすい周波数は様々な業務に割り当てられているため、既存業務に迷惑をかけずに新規割り当てを行う共用検討が益々重要視されておりました。

WRC-19新議題では、モバイルと衛星双方のWPが共同で責任グループとなる課題が2件設定されており、当方が担当したIMTとBSSの共存検討は課題9.1.2としてWP5DとWP4Aが責任グループに指定されました。これらの会合は開催時期や場所が異なり、かつ双方の会合への参加者がごく少数であることから、情報交換はリエゾン文書でのやり取りにとどまり、それぞれのWPで個別の作業文書に関する検討が開始されました。

過去に他案件で両WP間のリエゾンコンタクトとして両WP

での状況説明や質疑応答を担当した経験からも、両WPに参加できた機会を活かして、両WPをつなぐ重要な役割を担い、貢献していきたいと考えておりました。また、本課題は日本で既にモバイルサービスを運用している周波数を対象としており、日本が主導すべき状況でもありました。このような状況の下、両WPに参加できる機会を活かし、WP5D会合ではDG議長として審議を主導するとともに、WP4Aにも積極的に日本寄書を入力して両WPでのエキスパートとして総合的に審議を主導することができ、両WPがITU-R報告とCPM textを共同で検討する体制を確立することができました。WRC-19まで審議は続きますが、今後も日本の国益に貢献できるよう努めたく存じます。

また、現在のITU-Rにおける周波数有効利用についての審議は、モバイルと衛星だけでなく、様々な業務との共用条件を定めた上で、既存業務と同周波数帯への新規分配や特定が必要となっており、異業務間での連携が重要となっております。私も今回の受賞を励みとし、今後も周波数有効利用を目的とした共用検討を実践するとともに、WG間の垣根を越えた連携のために尽力、貢献させていただければ幸いです。



日本電気株式会社TCI事業部（現在 セーフアーシティソリューション事業部）

<https://www.nec.com/en/global/solutions/biometrics/index.html>

世界最高レベルの照合率を誇る顔認証技術システムを開発、世界40か国以上に納入し、犯罪やテロ等の課題解決に貢献した。また、引き続き同システム提供に際し、現地の技術者育成及び雇用創出を推進し、我が国の質の高いインフラ輸出に貢献している。

更なる顔認証・生体認証を活用した世界への貢献

この度は奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本ITU協会、関係各位に厚く御礼申し上げます。NECは約半世紀にわたり指紋認証や顔認証の研究開発に取り組んでまいりました。その活動が世界の安心・安全に活用され、また各国の雇用創出や人材育成等の経済活動に貢献し、今回このような形で実を結んだことを大変名誉に感じております。当社の顔認証はその後導入件数が増え続けています。それはIoT社会の進展に伴い、人とモノとの接点が膨大かつ加速度的に増加していることによります。すなわち、デジタルトランスフォーメーションが世界中で進展しているのです。このような状況下で、デジタル情報を安全かつスムーズに活用するために、生体認証が非常に重要な技術となっております。生体認証の「渡さず」「持たず」「待たず」「忘れない」といった特徴がそのポイントになっています。それ故に、米国・英国といった先進国から、東南アジア・中央アジア・アフリカ等の新興国まで、世界各国の社会インフラの一部としてより多く

の方にご利用いただいているのです。さて、生体認証の活用が進みますと、セキュリティ対策が非常に重要になってきます。NECでは精度や速度の向上はもちろんのこと、なりすまし対策も強化しています。例えば顔認証では、マスクを見破るといった技術を開発し、より多くの方にご利用いただけるよう研究開発に努めています。さらに、顔や指紋等の生体認証技術には精度や利便性にそれぞれ特徴がありますので、複数の技術を組み合わせたマルチモーダル認証を推進することでより精度が高くかつセキュリティが担保された、利用価値が非常に高い認証を実現することができます。そのため、NECは様々な生体認証技術の研究開発に取り組んでいます。その一つ、虹彩認証につきましては、この4月に精度No.1の評価を得ることができました。このようにNECは、日本発の生体認証技術をより世界でご活用いただけるよう、今後も取り組んでまいります。